

再生

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

「天地始終なく人生生死あり」——これ頼山陽の十三歳

元旦の「立志の詩」の一句ですが、これをいかに実感をもつて
わが身に刻み込むかが、我われの問題です。

森信三先生一語千鈞より

第0049号

2020.9月号

令和三年

実践人福岡仁風読書会

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

九 孝とは親の恩に報いる以上のものである

軽量厚薄

是のみが恩であり、報恩であるとするのは狭い。

とありますように(一)親の恩の軽重・厚薄は本来問うべきではない。(二)わが身が親からうけた恩に対して酬むというものは、考の一部ではあつても「孝」とは、世間ふつう報酬観念とは断じて違うものであります。即ちわが「生」の本源をかえりみて、そこに発する敬愛感謝の念をいうのであります。

養父母のこと

先にちよつと触れたことありますが、わたくしには、実父母と養父母とがあるのです。それと申すのもわたくしは数え年三歳の時に、肝心の父母が父親と別れて里へ帰りまして、そのためにわたくしは、それまで全く縁もゆかりもなかつた森家へ養子に出されたのであります。ところが普通貰ひ子というのは多くの場合、親の兄弟のところへというのが大方でありまして、即ち伯父・伯母の所へというのが大方なのに、わたくしの場合、森家は縁もゆかりもない上に、村も違い、その上森家は小作農だったのであります。ところが実家の端山家の方は、伯父が第一回国会議員でありまして、その後四期十六年県会議員を勤めた家から、一小作百姓の家へ貰われていったのであります。おそらく広い世間にもほとんど例のないことなのでしょう。しかしわたくしはその森家で、貧しくはありましたが、大へん大事に育てられたのでした。「実の子だったら、と

実践人福岡仁風読書会 第45回 8月8日(土)

場所福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 仁風庵にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

てもあんなに大事には出来ない」と隣近所の主婦たちの言っているのを、子どもころに何度も耳にしたほどでした。つまり、まるで「落胤」か何かのように大事にして育てられたのであります。ですからわたしは、この養父母を義理の仲だと思つたことは一度もありません。そして今や十五歳という歳になりまして、過ぎ来しわが一生をかえりみる度に、この養父母の大功が思われて、常に感恩の念を禁じえないのであります。このわたしのような我まま極まる人間を、一言の小言も言わずによくも、それでも育てて下さつたものだ——(しばし絶句)——

こうして、わたしが今日自分の生涯をふりかえりみまして感謝の念に堪えないのは、ひとり自分が大事にして育てられたということだけでなく、養父母は大へん勤勉な働き手だった上に、ひじょうに「律気」な人柄だったということでもあります。

このためにわたしは、この世の中というものは、その最下の基盤を支えている人びとが多くは貧しくて、恵まれない人々だということを、身根に徹して分かつたのであります。

同時にわたしの生涯の歩みが、ともすれば在野的、アウトサイダー的な道を歩むことになったというのも、その根本原因はどうもこの辺りにあるかと思われるのであります。

非行防止あれこれ

環境の美化、健康教育、図書館教育の中にも子どもの安定感、情操の鈍化、学習の主体化などを織りこんでやつては居たが、それだけではなかなか本校の子どもたちの粗暴性は消えなかった。校舎校具の破壊損傷の絶え間がなく、喧嘩喧騒はまだしも、学校を休むことさえ当然のように二十名近くも常習者が居り、甚だしきは家出も度々あつて、その都度、担任や宿直の先生は探しまわれねばならなかった。生活指導主任の伊藤悟先生は、自分の級のMやS、K、H、Yなどの非行を他先生から責められながら、全体の子どもの補導にけん命であつた。先生は遂に親善奉仕健康をモットーとする日本赤十字少年団加入を思い立たれて、自ら、子どもの代表を引率して、指導者錬成会(トレセン)に行き、帰つて、夏休みに上級各部代表のトレセンをPTA生活指導部の応援の下で毎年学校で宿泊訓練したり、各学年の夏休み中の宿泊訓練も自ら宿りがけで指導された。後には、担任部落の夏休み行事にも取入れ、奉仕親善に向つて全力を注いでいかれた。その成果は遂に父母を動かすし、PTA側の強い要望で正式参加に踏みきつて、県の各種の行事にも参加するようになった。後には原口先生の応援も得て補導を中心として下原部落の指導にも乗り出し、その発表会も成功裡に終り、その気風は各部落、各学級に漸次滲透していった。

同円異中心ということばを、倫理学の中で学んだことがある。同じ学級の中で、図書館は竹森先生、健康教育は高山先生、生活指導は伊藤先生、植物の事なら中西先生と、それぞれが異なった領域の中心となつて、而も一体的に子どもの善導がすすんで行く姿こそ、文字通り、同円異中心だった。

初の頃は、子どもの罵声、教師の叱声か乱れとぶような悪循環であつて、私に子どもを叱つたのを見た出入の商人が驚いて、

「先生、あなたもおこらっしゃることがありますな。」

と言つたことがある。併し、叱ることは余り成功しなかった。その時限りで、陰ではもう仕返しをする子どももあつた。私が子どもを呼ぶと、敬遠して逃げ行くようだった。そこでこの悪循環を断ちきるためには、子どもに人間関係の安定感を先ず与えねばならぬことを、玖村学長の講演からも思い出し、そのことに力を尽した。

子どもには、ニツコリ笑顔をみせていった。これは、私が三並校時代のことだが、通勤途中、田んぼに出かけるお母さんお婆さんとすれちがう。その時学校とは関係のないお方で、全身全霊から敬意を払われ、あらん限りの笑顔で挨拶される方があつた。私はこの痛ほどの感銘から笑顔づくりの秘訣を覚えていた。本校でもそんな感じの先生が多かつた。

私はまた、子どもとなるべく生活をともにしたいと思つた。私は若い青年教師時代を思い出し、よく相撲をとつた。負けてやると、低学年は特に喜んだ。いたずらつ子も元気に突きかかつてきた。肌の触れ合う時は、必ず心もふれ合つているかのようにあつた。遠足もつとめて子どもと一しよに歩き、クイズなどやりながら、笑いこけてつて行つた。作業も一しよにした。

問題の子に近づいて手伝わせたり、手伝つたり、重い物などわざと二人で抱えるようにした。

掃除の時間も努めて巡つた。この時は冬でも必ず上衣をぬいて、きりきりした姿で巡つた。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 321 回

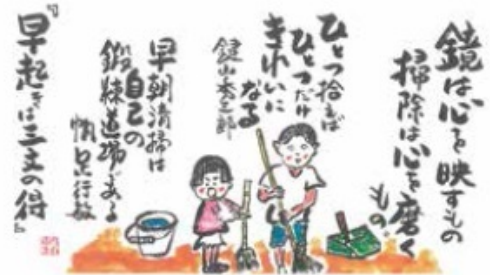
博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第321回 博多駅早朝清掃

8月8日(土曜日)

65名参加

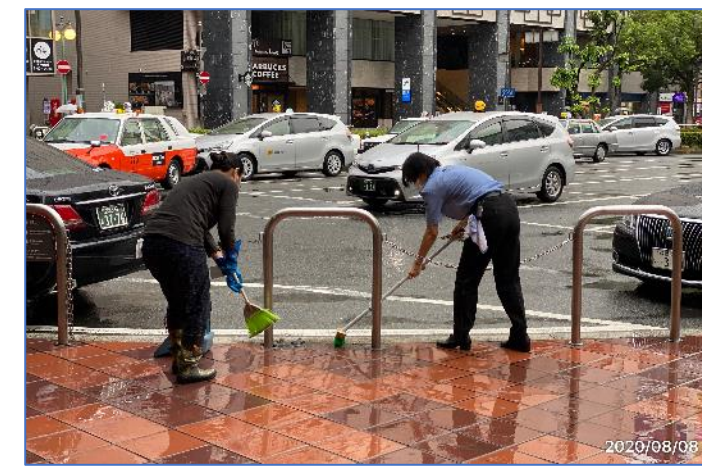
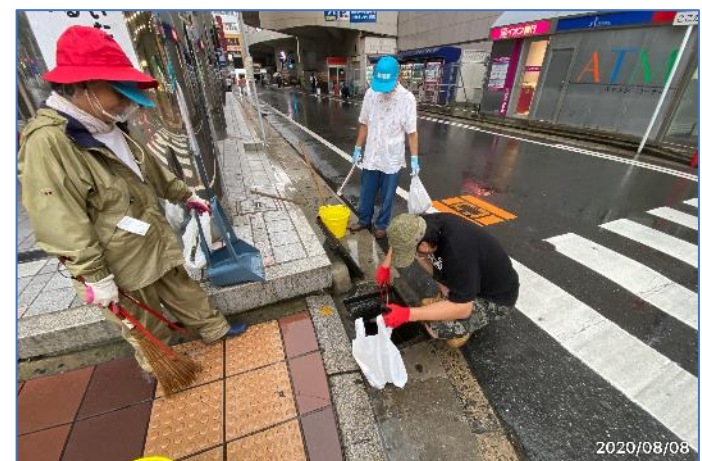
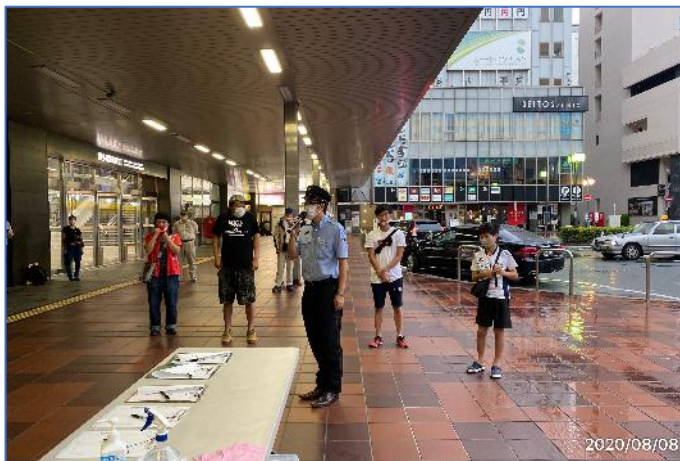


2020/08/08

第 3 2 1 回目の博多駅早朝清掃は、博多駅副駅長を始め 6 5 名での活動となりました。

参加者内訳 一般：3 2 名、女子高生：2 8 名 大学生 5 名の合計 6 5 名

博多駅長は、大雨の対応でお忙しい中で参加いただき、声かけ頂くという心遣いを頂きました。



第26回 福岡空港ミリオン清掃

8月15日(土曜日) 4名参加



令和を巡る早朝清掃／戒壇院 2020.1.25~

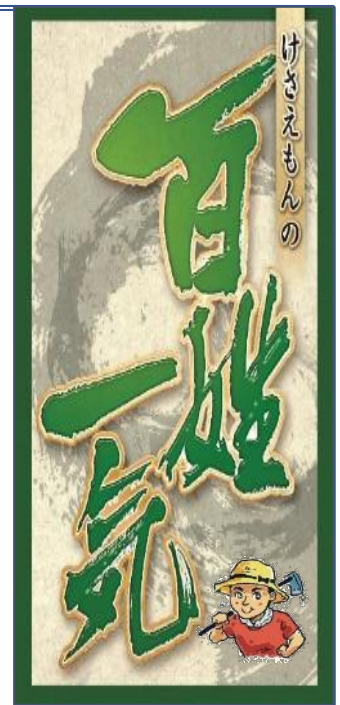
8月29日(土曜日)



新新塚駅早朝清掃/いづか明星寺団地自治会

7月18日(土曜日) 7名参加





工期9年、総工事費300億円超（関連施設含む）をかけて建設した甌大橋（全長1500m）が完成した。上甌と下甌の人的交流は殆どなく、完成後も住民の為の橋になるかと疑問視してきた。この地で、農地再生に取り組んでいた頃、地元住民とよく話し合った。着工当時40年の悲願が実ったと県や行政は言い続けた。果たしてこの税金の使い方は妥当だったのか？結果は見えている注視して行きたいと思う。

耕作放棄された農地の再生していたころの甌島
H15~17年ころ



回顧



刈り払い機安全衛生講習／楽農人

8月5日(水曜日)



研修中に発生した、刈り払い機安全衛生講習に関するお問い合わせは、お気軽に事務局までご連絡ください。

2-4-1 刈り払い機の準備

(1) 刈り払い機の準備は、刈り払い機を安全に使用するために、必ずしも必要です。また、刈り払い機を安全に使用するために、必ずしも必要です。

- 刈り払い機の準備は、刈り払い機を安全に使用するために、必ずしも必要です。
- 刈り払い機の準備は、刈り払い機を安全に使用するために、必ずしも必要です。

刈り払い機の準備は、刈り払い機を安全に使用するために、必ずしも必要です。

2-4-2 刈り払い機の準備位置

前2-4-2-1 刈り払い機の準備位置

(1) 刈り払い機の準備位置は、安全に使用できる部分で行うこと。

- 刈り払い機の準備位置は、安全に使用できる部分で行うこと。
- 刈り払い機の準備位置は、安全に使用できる部分で行うこと。

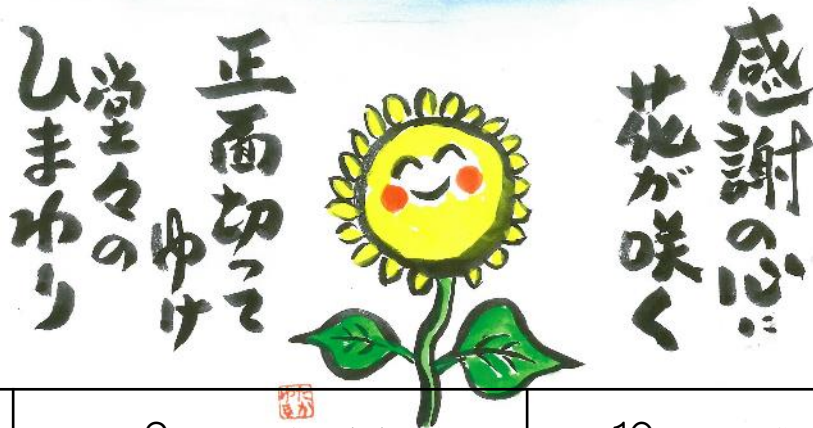
刈り払い機の準備位置は、安全に使用できる部分で行うこと。

刈り払い機の準備位置は、安全に使用できる部分で行うこと。

遊休農地再生楽校／in筑前大分

8月23日(日曜日)





		9 月の活動予定表						10 月の活動予定表					
日	5	8	9	11 13	19	20	26	3	8	17	24	25	31
曜	土	火	水		土	日	土	土	木	土	土	日	土
行事活動名	福岡空港ミリオソク清掃 第28回	博多駅早朝清掃 第322回	社会人講和	楽農人支援	新飯塚駅早朝清掃	遊休農地再生楽交 開交	令和を巡る早朝清掃	福岡空港ミリオソク清掃 第29回	博多駅早朝清掃 第323回	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃	第八回 遊休農地再生楽交 開交	遊休農地再生楽交 開交
場所	福岡空港 周辺一萬m	博多駅筑紫口	福岡市立和白丘中学校	埼玉県	福岡県飯塚市新飯塚駅	楽農人宇美農場	福岡県太宰府市 戒壇院	福岡空港 周辺一萬m	博多駅筑紫口	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県太宰府市 戒壇院	福岡県飯塚市大分地区	楽農人宇美農場
開始時刻	6時30分	6時00分	14時	終日	6時30分	7時	6時30分	6時30分	6時00分	6時30分	6時30分	7時	7時
運営団体	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡市立和白丘中学校	NPO法人楽農人	いづか清爽クラブ	NPO法人楽農人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	いづか清爽クラブ	福岡清爽クラブ	NPO法人楽農人	NPO法人楽農人

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

- ◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ
- ◇一般社団法人 実践人の家 福岡仁風読書会
- ◇NPO法人 楽農人 楽農人笑仲くらぶ

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>
 TEL 092-931-8155(掃除) 931-8150(読書) FAX 092-931-8120
 E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)
 shochu.club@rakunoujin.com(農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。

再生九月号

令和元年九月八日発行(毎月一回八日発行)

創刊 平成二十八年九月一日

発行人 富 袈裟右衛門